



路政春秋

バス業界の妖雲を 去れ

鐵道省監督局陸運課長山脇氏の「客年の自動車運輸事業を回顧す」の一文を讀んで自動車交通事業法の實施以來旅客自動車運輸事業は勿論物品自動車運輸事業も著しく發展し客年十一月の調査に依ると旅客運輸の方は事業者數三千九十三人路線延長十萬八千六百六十一軒車輛數二萬二千九百九十八輛物品の方で事業者數三百六十九人路線延長一萬四千八百九十八軒、車輛數五百七十三輛と成つて居る。又内田鐵相の「年頭所感」中に、省營バスの路線延長は六百四十五軒に達したとある、近代交通機關としての

自動車運輸が斯くも發展し行くことは我國文化の進展と産業の開發上實に慶賀すべき現象で汎く國民生活の利便を増進し國力充實と貢獻する所の少からざるものあるは疑はないのであるが、彼の地方費に依つての新設改修道路使用に關する負擔問題の如き私營バス事業に對する壓迫の不安問題の如き省營バスの發展を歓迎せんとする者に取つてもなんとなく重壓を感じしめらるる妖雲である。鐵道當局の熱心と懇切とは更らに度量を大にして前掲二大問題の解決を速に斷行せられんことを切望する(ツウキン)

忘却された道路は なきか

聞く所によると昭和六年度から同八年度に至る間に於て府縣道を失業救済、産業振興、農村振興事業として四米五以上に改良したる總延長は實に四百六萬三千五十四米に達したとの事である、之れに市町村道の事業延長數を加算すれば餘程の延長となるであらう、此事業は交通上の重要性より失業者窮民の匡救に重點を置いた事業であるから其維持修理の點に於ては今後如何に處置せらるるであらうか、管理者の注意の上から又財源の上から推察すると所謂「忘却された道路」となるではなからうか、設令事業の重點が交通に置かれなかつたにせよ一度少くとも交通上必要なりとして巨額の國費及地方費を投じて改良したる道路で

注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

あるから其の維持修理に意を用ゐることが尤も大切である。夫れで道路愛護會を普及し且其活動を旺ならしむることが路政の任にあたる者の盡力すべき事柄であると思ふ、道路改良會の首脳部各位に對し敢て進言する(愛路生)

祈らざる祈り

「大本教」が禁止解散されるとか「天理教」に斷歴の手が降つたとか「人の道」が許すべからざるものだとか「長生の家」が極端な迷信だとかの噂を耳にするか街頭に出て確かに迷信の多きを感じる樂翁公の一文に「愚かなる者は父母祖先の神靈を粗末にして、願ふべき筋も無き神佛にても靈驗あらたかなりといへば、此處の神に彼處の佛に多くの金銀を擲ち、我が身及び子孫の福を願ふは惑へるなりけり、その金銀をもつて民を救ひ善事に用ふるは『祈らざる祈り』にして自らその身及び子孫にも福あるべき

ことは必然の道理なり、神は非禮をうけずといふに、非禮の祈禱に多くの金銀を費すは惜むべきことならずや」と寔に味ふべきことである、「心だに眞の道にかなひなば祈らずとも神や守らん」祈らざる祈りは今日吾れ人共に反省すべきことである。(愚禿)

血書愛國心の流行を制せよ

滿洲事變以來頗に沸き立つたと思はるる愛國的興奮には幾分不純なもの鍍金されたものがあると傳へらるゝのである、例令ば兎や猫の血で現役兵採用の血書嘆願書を提出したものがあるとか、街のギャング達が詰らないことで喧嘩し傷附け合つて流した血を利用し血書を作つて時の陸相荒木大將に差出し同大將をして感激せしめたこともあると傳へらるる如き其一例である、欺く道に以てすれば孔子にあらざる荒木大將

をも無檢討に感激を買はしめたのである、夫れに何の不可思議なことはない。

兎や猫を借りて自ら鍍金シカモフラードして愛國者を氣取るが如きは眞に唾棄すべきことであるが妄りに獨斷的な「憎みても餘りある」と云ふが如き惡言を放つて血書愛國者流に示唆を與ふるに類する行爲は斷乎として制止せねばならぬ、國民をして盲目的興奮に誘導してはならぬ、偽裝され鍍金された愛國者をも出現させてはならぬ、眞の愛國者は盲目的ではない、偽裝的ではない、冷靜に自覺し、認識し、決意し自己を抛棄した奉公の精神に滿された者である、下見れば我にまさりし者もなし笠とりて見よ天の高さを(笠松)

本立ちて道生ず

君子は本を務む、本立ちて道生すと小人は名と利とに急にして、徒らに末に走つて私利私欲を圖り虚名を博することに腐心す

る。昭和十一年度の國の豫算編成綱要の中に「現下の國際情勢は多額の國防費を要し又地方農村等の狀況と累年の災害とに相當の施設を行ふの要あるため國家經費の縮減を期し難きものあり、而して經濟界の現狀は民力涵養の時期にして一般的増稅計畫を樹つるに適せず」とある、又軍縮會議全權に對する訓令案審議の閣議席上高橋藏相が「軍縮は世界平和の達成を根本の建前とするものであるが各國は今少し穩健な主張の上に立たねばならぬ、その意味に於て日本の不脅威不侵略の原則は極めて公正妥當なものと考えざるから日本の意のあるところは最後まで出来るだけ懇切丁寧に條理を盡して説明し決裂といふ如き事態に陥つても國際感情を能ふ限り刺戟せざるやう處置すべきである」と述べられたと仄聞する。言なかなだ斯るデスカツシヨンの公にせらるることに依つて國力充實の道が生ずるのである。(夏村)

外出が恐ろしい

雨にたゞかれ時雨にぬれて、晴れりや、黃塵空吹く風に、街の往來も女の恨みとな

會ては我同盟國たりし英國のジョージ五世皇帝陛下は一月二十一日の朝いともやすらかに崩御あらせられたと承る。在位二十有七年間爲政者に依つて外交方針は幾變か轉した或は我に親しみ或は米と結び曩に滿洲問題で我をして聯盟より脱退するの己むを得ざるに至らしめ今また不脅威不侵略主義を一蹴して我をして軍縮會議より退却せしめたとはいへ「統治するも支配せず」との鐵則を守らるる。皇帝の慈愛心は不絶我國との交誼を厚ふし今日に至らしめ給ひたるのは疑なき事實である今や「登遐せられ給ふた噫、謹んで御冥福を祈り奉る」

つたのは昨日の事で今は帝都の路面の舗装見せてやりたき思ひはするが惱は残る交通禍、信號守るは少数者、停止線やら歩道やら無視してかゝる自轉車、オートバイ、交

通巡査の目を盗みコラツの一聲ひびかぬ内は其横着が多う過ぎる外出でこわいと暮の鐘かね(F.M.生)

行詰か、煙か

工事は決して行き詰るものでない……行詰つたのは工事技術家自身の精神的氣力の不振であるとの警句が年頭に際して工事畫報社同人に依つて叫ばれた、行き詰つたの感がするのは工事界ばかりでない、社會は行詰らないのに人間の氣力が徳力が行き詰つたのである、路政人は決して行き詰つてはならない、行き詰らしてはならない。勇氣百倍來る日も來る年もいささかの倦怠もなく邁進し路政報國の實績を擧げんことに最大努力を惜むことなきを期待したのである。又「吾なき帝都化」「煙なき帝都化」を志して警視廳が邁進するとのことである、寔に結構な企圖である。燥音と雜音の都人の心氣を惱ますこと、黒煙毒々しく低空を掩ふの不氣味さは街の吾等を暗黒化する氣分がする。明朗化した世界其處に都會生活の幸福が招來せらるる。(ロヒシ)